空き家が及ぼす

- 倒壊の危険 -



環境・景観の悪化



- 不審者・住み着き





す。住まなくなったからといって、ちんと管理されているものもありまのはかりではありません。中にはき ことで再び輝きを取り戻すのでなとする人に売ったり、貸したりなそのまま放置するのではなく、 たちがいます。その思っこ虫し、き家に新しい命を吹き込んでいる人き家に新しい命を吹き込んでいる人 元々はたくさんの思い出が詰まった 化にもつながっていきます。 場所だったはず。空き家は危険なも な問題が発生する空き家ですが、 や環境・景観の悪化など、 り、有効活用することでまちの活性 空き家は大切な地域の資源であ 、さまざまな工夫で、空輝きを取り戻すのです。売ったり、貸したりする さまざま 安全面 必要

3,000 2,610 2,890 3,460 1,000

住宅土地統計調査による古河市の空き家推移

(別荘・賃貸・売却用住宅を除いた空き家) (戸数) 3,500**戶** 2,000 平成20年 平成25年 平成30年

の中には、訴訟問題に発展しかねな200件近く寄せられる問い合わせざまな対策を講じています。年間見を聞き連携を取りながら、さま見を聞き連携を取りながら、さま 行により、全国的に空き家の増加はん。近年、人口減少や核家族化の進侵入など防犯上も好ましくありませほか、環境・景観の悪化や不審者の だったり、 いケースも見受けられるなど、の中には、訴訟問題に発展しか 調査を行い、 大きな社会問題になっています。 朽した空き家は倒壊の危険性がある 茂る空き家になってしまいます。 ため傷みやすく、 なった家は手入れがされにくくなる たはずの家。 いるため、平成30年に空き家の実態 古河市でも空き家は増加を続けて かつては家族みんなが集まる場所 いる空き家はありませんか?なたの周りに手つかずになって 安らげる場所だったりし しかし、 古河市空家等対策計画 庭木や雑草が生い 人が住まなく 老

もが直面する可能ではない、誰家問題は決して他人事ではない、誰家問題は決して他人事ではない、空き

5 - 広報古河 2022.7

んか。